

2017年9月14日

ジェットスター・ジャパン株式会社

ジェットスター・ジャパン、二期連続で増収増益を達成

- 2017年6月期も増収増益、二期連続の黒字を達成
- 純利益は前年の6,300万円から4億9,800万円と増加
- 平均搭乗率は前年度比2ポイント増の85%

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:片岡優)は、本日、2017年6月期決算(2016年7月1日~2017年6月30日)で、4億9,800万円の純利益を計上し、昨年に続いて2年連続での通期での黒字を達成したことを発表しました。営業収入は対前年比1%増の528億円となりました。

2017年度の搭乗者数は国内のLCCとして最多となる520万人(有償ベース)となり、平均搭乗率は前年度比2ポイント増の85%となりました。

ジェットスター・ジャパン株式会社の代表取締役社長、片岡優は次のように述べています。

「お客様からのご支持と関係する皆様からのご協力をいただき、二年連続で黒字を達成できたことを心より感謝いたします。5年前の就航時、3都市・2路線を3機の航空機で運航開始しましたが、現在では21機まで増え、今年6月には上海に就航し、国内外15都市・25路線まで路線網を拡充してまいりました。今年7月には、就航からの累積搭乗者数2,000万人を国内のLCCとして最速で達成しました。国内線におけるLCCとしてのシェアは50%(注)で最大となっています」

「ジェットスター・ジャパンは、昨年策定した中期計画を進めており、今年度中に22機、23機目となる機材の導入を予定しています。また、2018年春をめどに中部国際空港を拠点化する計画も順調に進んでおり、国内外路線網を今後さらに拡充していく所存です」

ジェットスター・ジャパンは、今後も『日本の空、世界の空を、もっと身近に。』というビジョンの下、安全運航を第一に、低運賃と確かな運航品質を継続しながらお客様のニーズに合ったサービスを提供してまいります。

(注)出典:国土交通省「航空輸送サービスに係る情報公開(平成28年度第4回)」(平成29年7月26日発表)

国内線マーケットシェア:50%(RPKベース:平成28年度2016年4月~2017年3月)



【ジェットスター・ジャパンについて】

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より東京(成田)、大阪(関西)、札幌(新千歳)、福岡、沖縄(那覇)に就航し日本国内線の運航を開始しました。その後、名古屋(中部)、大分、鹿児島、松山、高松、熊本へと国内の就航地を広げたのち、2015年2月の香港線の開設を皮切りに同年11月の台北線、2016年3月のマニラ線、2017年6月の上海線と国際路線網を拡充しています。現在、国内最大のLCCとして国内16路線、国際9路線を21機のエアバスA320型機(180人)で1日約100便を運航しており、就航から5年で2,100万人以上のお客様にご利用いただいています。なお、ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、三菱商事株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。<http://www.jetstar.com>